

女子大学生による家庭洗濯の実態調査

－2007年と2008年－

間瀬 清美

Survey on at-Home Laundry Habits of Female University Students in 2007 and 2008

Kiyomi MASE

緒 言

家庭洗濯を行う場合、洗剤、洗濯機、繊維製品、取扱い絵表示等が関ってくるが、近年では技術の開発に伴い、洗剤や洗濯機の種類や機能が多岐にわたってきている。洗剤については、漂白剤含有、柔軟剤含有、部屋干し対応、環境対応等の性能も含む上、粉末、液体などの形態別も含めると、非常に多種類の洗剤が出回っている。洗濯機については、従来日本では渦巻き式洗濯機が主流であったが、ヨーロッパに多い洗濯と乾燥が行えるドラム式洗濯乾燥機も増えつつある。取扱い絵表示にドライマーク表示が示されている繊維製品は、ドライクリーニングに出すものと思われてきたが、洗濯機の水流が細分化し、弱水流やドライ用水流の開発により家で洗う場合も増えてきている。家庭洗濯は、このような要因が複雑に関連し合っている。通常家庭洗濯は主に主婦が行う事が多いが、女子大学生を通して各家庭での洗濯について調査することで、家庭洗濯の実態を把握し、さらには女子大学生の家庭洗濯における知識や技術の向上に繋げることを目的として、研究を行った。

方 法

1. 調査対象者

名古屋女子大学家政学部生活環境学科の「被服整理学」の受講者に対し、2007年50名、2008年64名の計114名から回答を得た。両年ともに自宅生80%、下宿生20%であった。

2. 調査時期

調査時期は、2007年7月と2008年7月である。

3. 調査項目

(1) 調査対象者に関する事柄

主に洗濯する人、あなたは衣服購入時に素材を見て購入するか、あなたは衣服購入時に取扱い絵表示を見て購入するか、あなたは取扱い表示に従って洗濯するか、洗濯者は取扱い表示に従って洗濯するかの5項目である。

(2) 洗剤に関する事柄

使用している洗剤（複数回答可）、使用している洗剤の洗浄力に満足しているか、洗剤を選ぶ時の一番目の要因、洗剤を選ぶ時の二番目の要因（複数回答可）、洗剤を選ぶ時に生分解性などの環境への配慮をするかの5項目である。

(3) 洗濯機に関する事柄

洗濯機の種類、洗濯機を選ぶ要因（複数回答可）、洗濯機を選ぶ時に環境への配慮をするかの3項目である。

(4) 表示の扱いや仕上げに関する事柄

ドライマーク・水洗い不可表示をやドライマーク・水洗い可表示をどのように洗濯しているか（複数回答可）、乾燥の仕方（複数回答可）、干し方（複数回答可）、漂白の頻度、柔軟の頻度、しみの処理、失敗事例の8項目である。

4. 調査方法および集計方法

調査は、家庭洗濯についてのアンケート調査である。なお、調査方法は集合調査法で行った。得られた結果は単純計算し、さらにクロス集計も行った。

結果および考察

1. 調査対象者について

主に洗濯をする人の結果を図1に示した。兩年共に最も多かったのが母親であり、大半を占めている。次に本人、祖母の順序であった。下宿生は兩年共に20%いるので、2007年はすべての下宿生は本人が洗濯しており、2008年は下宿生の他に、自宅生でも本人が洗濯している人が5%いた。中には、姉妹が主に行う家庭もあった。

図2に、表示に対する意識を示した。

まず、女子大学生自身の衣服購入時での

表示へ関心であるが、取扱い絵表示よりも素材の組成の方を重要視していた。「あなたは素材の組成を見て購入するか」を「はい」「ややはい」と答えた人は2007年72%、2008年51.6%であり、購入時の大事な要因となっている。一方、「あなたは取扱い絵表示を見て購入するか」を「はい」「ややはい」と答えた人は2007年30%、2008年15.6%と減り、購入時にあまり見えない結果であった。2007年の方が、両項目の数値が高く、きちんとした衣服選びをしている傾向があった。「あなたは取扱い絵表示に従って洗濯するか」の問いには、2007年74%、2008年65.6%の人が肯定的に従っており、購入時ではあまり気に留めなくても洗濯時には、気をつけていることが伺えた。「洗濯者は取扱い絵表示に従って洗濯するか」には、2007年22%、2008年15.6%が「はい」と答えており、「あなたは取扱い絵表示に従って洗濯するか」の7.8~10%より明らかに高く、洗濯者への表示による実践への信頼は高いと言える。「はい」「ややはい」

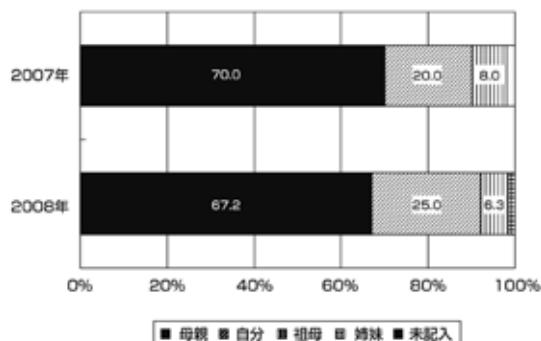


図1 主に洗濯をする人

の合計になると本人と洗濯者に大差はなく、2008年の本人は65.6%と若干低い、他は70~74%であった。

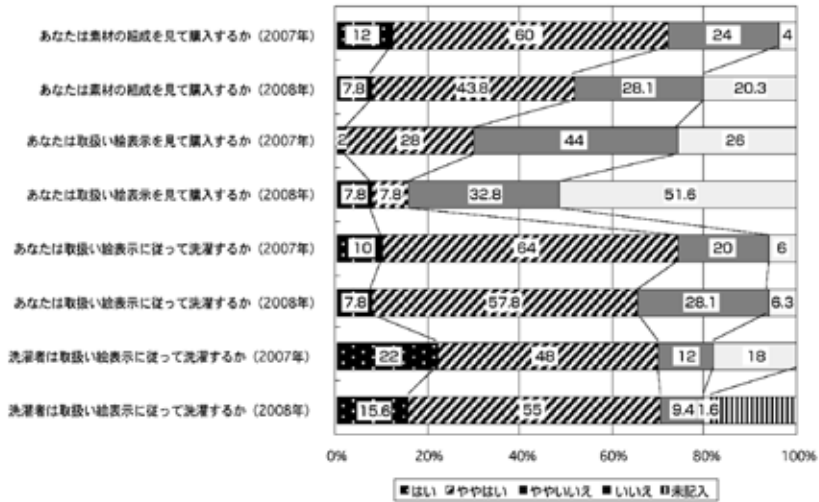


図2 表示に対する意識

2. 洗剤について

使用している洗剤の結果を図3に示した。家庭では、数種使用していると思われるため複数回答可で回答してもらった。粉末合成洗剤、液体合成洗剤、中性洗剤、洗濯用せっけん、洗濯用複合せっけんの順で、合成の界面活性剤を多く含むものが多かった。複数置いている理由としては、粉末合成洗剤は汚れ落ちの良さがあり、液体合成洗剤は溶解力が早い、柔軟

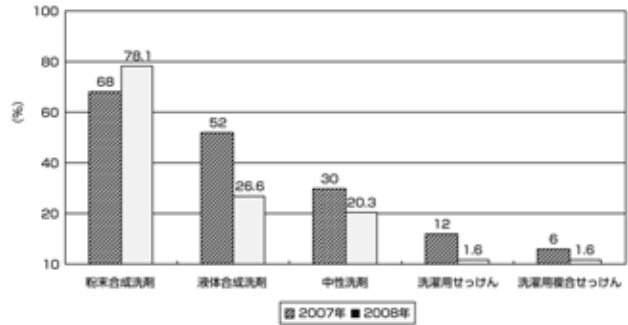


図3 使用している洗剤

効果が大きいなどが考えられる。また、中性洗剤は絹、羊毛などに適しており、繊細な繊維には必要となる。洗濯用せっけんや洗濯用複合せっけんが少ないのは、一つには漂白剤含有や部屋干し対応などの付加価値が少ない事が挙げられる。また市場に出回っている製品が少なく、購入できるお店が限られることも起因している。使用している洗剤の洗浄力については2007年94%、2008年95.3%で、両年の平均で94.7%の人が、肯定的に満足している回答を得た。優れた溶解力や酵素パワーなど、日本の洗剤メーカーの技術力の影響が大きいと言える。洗剤を選ぶ時の一番目の決め手の要因としては、両年の平均で65.0%の人が洗浄力を挙げていた。二番目の要因についても、両年の平均で除菌性が28.3%、柔軟性の付与が28.1%、洗浄力が27.5%、価格が22.0%、風合いが20.6%、漂白性の付与が15.8%、部屋干し対応が7.7%、環境にやさしいが5.2%であった。価格と部屋干し対応と環境にやさしいは、2007年より2008年が上回っていた。その他の記述欄に香りを挙げ人は2007年では2%、2008年では6.3%と増えており、最近の洗剤に求める要因の動向を知ることができた。

洗剤の環境への配慮の結果を図4に示した。洗剤を選ぶ時に生分解性の良いものを選ぶなど、環境への配慮をするかの問いに対して、「はい」「ややはい」「ややいい」「いいえ」の合計について2007年では52%が、また2008年では53.2%が配慮するという回答であった。後に環境への配慮という点で、洗剤と洗濯機を比較する。

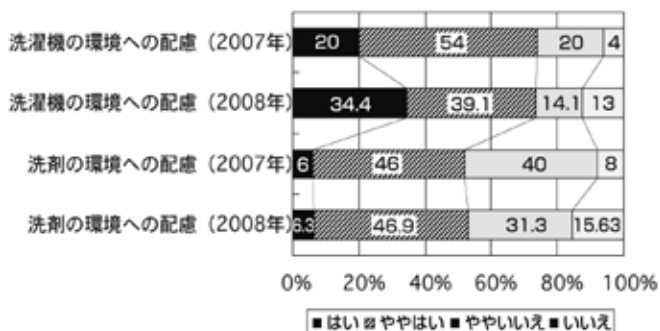


図4 洗剤と洗濯機の環境への配慮

3. 洗濯機について

洗濯機の種類の結果を図5に示した。2007年に比べて2008年の調査で、洗濯乾燥機の割合が増えており、ドラム式洗濯乾燥機が9.3%、縦型洗濯乾燥機が6.3%で、計15.6%になっている。二槽式洗濯機も2007年よりも若干多くを占めていた。その分、全自動洗濯機の割合が減っている。従来洗濯乾燥機は価格が高かったが、生活者に購入できる価格まで安定してきたので、いろいろ機能が搭載されていることもあり、買い替え時に洗濯乾燥機が選択されてきたと推定できる。

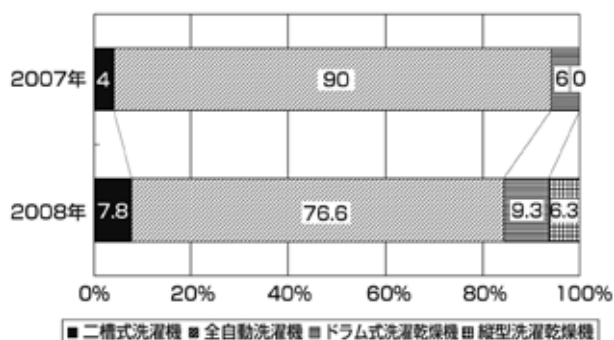


図5 洗濯機の種類

洗濯機を選ぶ要因については複数回答可で行ったが、両年の平均において洗浄力55.9%が最も重視されていた。価格49.4%、使い方が判りやすい38.8%、節水タイプ29.9%、風呂水が使える29.9%、大物が洗えて良い27.2%、節電タイプ12.3%を選ぶ要因として挙げていた。節水、風呂水、節電と環境へ配慮した要因が並ぶ。図4の洗濯機の環境への配慮の図をみると、2007年74%、2008年73.5%の人が環境への配慮を肯定的にしており、洗剤への値より大きかった。洗剤の環境への配慮は洗剤メーカーの努力と考えられがちなのに対して、洗濯機における節水、風呂水使用といった行動は、生活者として環境への貢献の実感が大きいものと思われる。

4. 表示の扱いや仕上げに関する事柄

ドライマーク・水洗い不可表示やドライマーク・水洗い可表示の扱いの結果を図6に示した。これは「ドライマーク・水洗い不可表示の洗濯はどうしていますか」「ドライマーク・水洗い可表示の洗濯はどうしていますか」の問いに対して、「クリーニングに出す」等の選択肢5個とその他で回答してもらった。「クリーニングに出す」という選択肢の中では、両年ともにドライマーク・水洗い可表示よりもドライマーク・水洗い不可表示に対して、より多くの人がクリーニングを利用していたので、ここでの表示への認識は良いと言える。しかし、「素材の上質なものはドライクリーニングに出す」の中では、2007年にも2008年も近似の値で、水洗い出来る、

出来ないに関わらず、上質なものについては、ドライマークを優先していると言える。これらマークに対し、洗濯機のドライコースを利用する人もいるが、ドライマーク・水洗い可表示に対してより多くなっていた。洗濯機の標準コースに着目してみると、ドライマーク・水洗い不可表示に対しても少数の人が行っていた。標準コースでは水流が強すぎて、縮みの可能性も十分考えられる。

乾燥の仕方を図7に示した。天日干しが最も多く、両年の平均でも74.7%を占めた。その他としては、従来では雨や夜間時に乾燥機を併用した「天日干しと乾燥機」14.8%が考えられたが、「部屋干し」が若干ではあるが上回り15.6%であった。最近では除菌や臭い面を考慮した部屋干し対応の洗剤が出回っている背景もあるからと考えられる。

干し方の結果を図8に示した。

「しわ・型崩れに気をつける」が最も多く、平均で82.8%を占めた。他には「早く乾くように干す」「他人から見られて恥ずかしくないように」などが挙げられたが、10%程度であった。

漂白の頻度を図9に示した。「時々行う」が最も多く、平均で75.2%を占めた。黄ばみの除去等の必要を感じた時に行っているようである。次に多かったのは「漂白剤含有の洗剤を用いる」が13.2%であった。「いつも行う」は、平均で0.8%に過ぎなかった。

柔軟の頻度を図10に示した。「時々行う」が最も多く、平均で46%を占めた。「柔軟は考えず」「いつも行う」の数値がいずれも漂白の場合より多かった。「柔軟は考えず」と回答した人は、柔軟剤を用いることで洗濯物は疎水性になり、吸水機能が損なわれるという物理的性能を嫌うからと推察する。一方、「いつも行う」を回答した人は、柔軟仕上げを好きな感触として、取り入れたいと思っていると推察できる。

図11にしみの処理の結果を示した。「自分でしみ抜きをする人」は、両年の平均で37.3%、「クリーニングに出す人」は31.7%で、「自分の処理後にクリーニングに出す人」は、25.1%であった。自分の処理で取りきれなくてクリーニングに出したとしても、しみの性質が水溶性か油溶性かに応じて処理しておけば、後のしみの除去に多いに役立つと思われる。「処理せずそのまま」の人は5.9%いた。外観の悪さや衛生面や虫くい等が心配される。

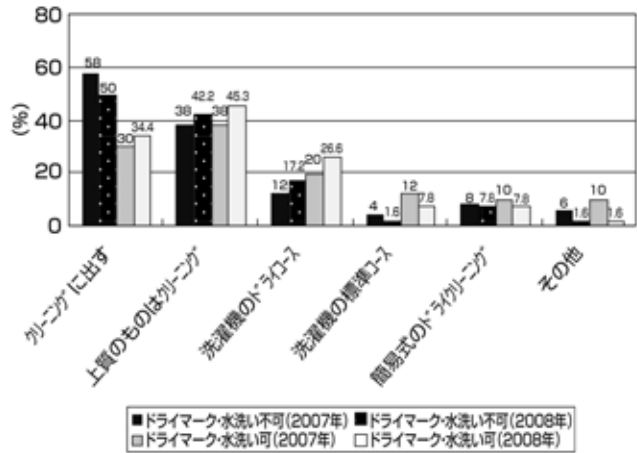


図6 ドライマーク・水洗い不可表示やドライマーク・水洗い可表示の扱い

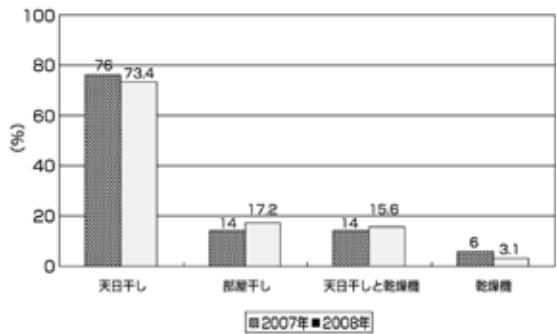


図7 乾燥の仕方

失敗の事例では、「あなた自身は家庭洗濯で失敗はありますか」の問いに対して、2007年では46% (23人) が、また2008年では42.2% (27人) は失敗があると回答した。両年で50人のうちの44% (22人) が「色移り」や「色落ち」等の「色」の事であった。洗濯による染色堅牢度の低そうな衣服やジーンズなどは、仕分けして洗濯するなど、注意を要する。次に多かったのは「縮み」の事で、両年で50人のうちの26% (13人) が挙げていた。セーターの縮みを挙げている学生がいるので、ドライマーク・水洗い不可表示を水で洗ったり、あるいはドライマーク・水洗い可表示の衣服を普通的水流で洗う等、取扱い絵表示に忠実に従わないことに寄るところが大きいと考えられる。

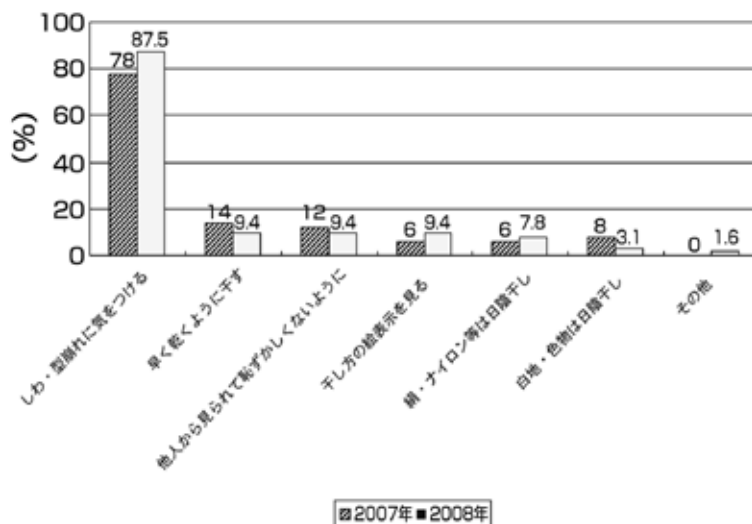


図8 干し方

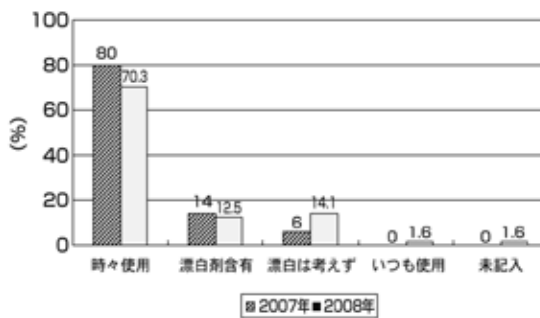


図9 漂白の頻度

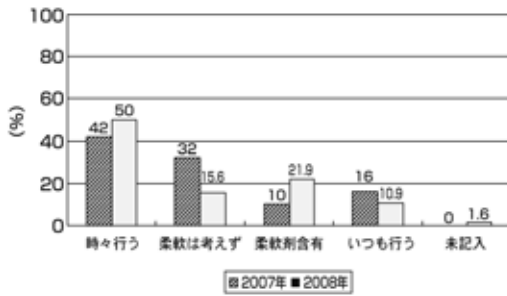


図 10 柔軟の頻度

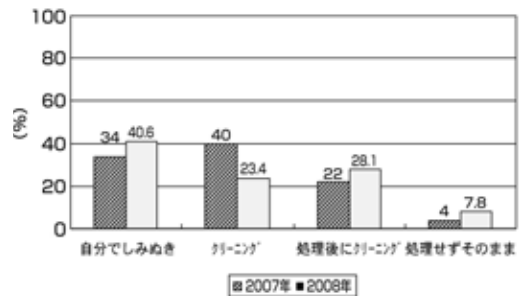


図 11 しみの処理

5. クロス集計

環境への配慮として、洗剤で考慮する人が52%~53.2%、洗濯機で考慮する人が73.5~74%出現していたことから、この2項目間でクロス集計を行った。その結果を表1-1に示した。洗濯機を選ぶ時に「はい」と答えた人は、洗剤を選ぶ時にも環境のことを考えて「はい」「ややはい」答える人が多く、洗濯機を選ぶ時に「ややはい」と答えた人も、洗剤を選ぶ時に「ややはい」答える人が多かった。洗濯機を選ぶ時に「いいえ」と答えた人は、洗剤を選ぶ時にも「いいえ」と答える人が多くなり、洗濯機と洗剤の環境への配慮には相関があったことが示された。

次に「あなた自身は、取扱い絵表示に従って洗濯するか」と「しみの処理」の2項目間でのクロス集計の結果を表1-2に示した。取扱い絵表示に従って洗濯することに「はい」と答えた人は、「自分で処理後にクリーニング」や「クリーニング」に出しており、妥当な対応の仕方と言える。また「ややはい」と答えた人は、「自分で処理」「自分で処理後にクリーニング」「クリーニング」の対応であった。「ややいいえ」「いいえ」と答えた人では、しみを「そのまま処理しない」の数が増えていたので、この2項目間でも相関が高かった事が判明した。

表 1-1 洗剤と洗濯機の環境への配慮のクロス表

		洗濯機				合計
		はい	ややはい	ややいいえ	いいえ	
洗剤	はい	6			1	7
	ややはい	18	30	3	2	53
	ややいいえ	7	16	14	3	40
	いいえ	1	6	2	5	14
合計		32	52	19	11	114

表 1-2 絵表示に従って洗濯するかとしみの処理とのクロス表

		しみの処理				合計
		自分で処理	自分で処理後にクリーニング	クリーニング	処理しない	
あなたは 絵表示に従って 洗濯するか	はい		3	2		10
	ややはい	14	10	13		37
	ややいいえ	12	6	10	3	31
	いいえ	12	10	10	4	36
合計		43	29	35	7	114

要 約

家庭洗濯の実態を把握するために、女子大学生を通して各家庭での洗濯について、アンケート調査を行った。調査対象者は114名で、調査項目は調査対象者、洗剤、洗濯機、表示の扱いや仕上げに関する事柄で、以下の結果を得た。

1. 主に洗濯する人は、母親が最も多く、次いで本人、祖母であった。
2. 洗剤の洗浄力には、94.7%の人が肯定的に満足していた。2008年になって部屋干し対応、環境にやさしい、香りといった要因の付加が求められるようになってきた。
3. 洗濯機の種類は、2007年に比べて2008年では全自動洗濯機が減って、ドラム式や縦型の洗濯乾燥機が増えていた。
4. 家庭洗濯での環境の配慮については、洗剤より洗濯機における環境への配慮の方が大きいですが、この2項目間に相関があった。
5. 取扱い絵表示に従って洗濯している人は、しみの処理への対応も良く、取扱い絵表示に従って洗濯しない人は、しみもそのままにしている傾向があった。

取扱い絵表示を理解することと、その表示に従うことと、洗濯やしみ抜き等の実践力を養う事が、家庭洗濯での失敗を少なくすると考えられた。

謝 辞

アンケート調査に回答して頂いた、生活環境学科の2007年及び2008年被服整理学受講の女子大学生の方々に謝意を表します。

文 献

- 1) 土井千鶴子：主婦の家庭洗濯に対する意識と行動，姫路短期大学研究報告，43，101-106 (1998)
- 2) 間瀬清美，原田妙子，小町谷寿子，石原久代：男性の衣服着用の現状，家政誌，54，219-228 (2003)